

# 第 113 回日本皮膚科学会総会 イブニングセミナー 15【ES15】

## 皮膚科診療における光線・レーザー治療

～ 治療戦略と実践 ～

日時：2014年5月31日(土) 18:20～19:20

会場：国立京都国際会館 第10会場 (RoomB-2)

座長：大井 綱郎 先生 (東京医科大学茨城医療センター皮膚科 教授)



演題：「ナローバンド UVB、エキシマライトによる皮膚治療」

演者：尾見 徳弥 先生 (クイーンズスクエアメディカルセンター皮膚科)

紫外線療法は従来から皮膚疾患治療に広く用いられている。特にエキシマレーザーは尋常性白斑の治療効果が高いと報告されているが、装置が高額で皮膚疾患治療に汎用するのは不適である。一方、エキシマライトはアトピー性皮膚炎、尋常性乾癬、尋常性白斑、皮膚リンパ腫等に健康保険適応であり、円形脱毛症、慢性痒疹などへの有効性も報告されている。今回、エキシマライト - マイクロ (DEKA 社) を用い、成人患者の治療前後の培養皮膚固有 T リンパ球における IL-2、IL-4 mRNA の半定量化を RT-PCR 法にてアトピー性皮膚炎治療に対する効果を検討した。その結果、重症度スコアは 12-18 (平均 13.7) から 6-13 (平均 6.7) と有意差をもって改善傾向を示し、RT-PCR の結果は 8 回の施術後に IL-2、IL-4 の m-RNA ともに著明に減少していた。エキシマライト - マイクロは小型で省スペース、病変部のみの選択的な照射が可能である特徴を有する。これらに関して総論を含めて概説したい。



演題：「フラクショナルレーザーと高周波による光老化皮膚の治療」

演者：船坂 陽子 先生 (日本医科大学皮膚科准教授)

光老化皮膚を改善するには、紫外線により損傷を受けた組織、細胞を除去し、再生する必要がある。現在のところ、その治療法としてはレチノイド、ケミカルピーリング、Intense Pulsed Light, ablative もしくは non-ablative の fractional laser、高周波が用いられている。これら治療の標的が皮膚のどの細胞および組織で、結果どのような状態が誘導されるのかを理解して治療にあたる必要がある。また、炎症を伴うことにより色素沈着や瘢痕などの副作用が生じる。白人と比べ日本人の場合、そのリスクが高くなるので、治療をするにあたり、治療の作用機序を熟知して、適切なパラメーターを使用することが肝要である。日本人女性に対し、フラクショナル炭酸ガスレーザーおよび高周波を用いた治療を施行し、どのような治療結果が得られたのか、我々の施設の結果を交えて紹介する。

当セミナーについては事前に整理券が必要です。

配布場所：国立京都国際会館 1F 第1会場 (メインホール) 前

配布日時 (予定)：5月31日(土) 8:00-11:10

※発券数に限りがございますので、予めご了承ください。



共催：第 113 回日本皮膚科学会総会



株式会社 DEKA JAPAN

〒107-0062 東京都港区南青山 2-21-37

TEL：03-5785-2133

URL：www.dekajapan.jp